

第 5 回県立高等学校の在り方検討委員会のご意見・質疑等の概要

1 資料等に関する質疑について

項目	対応資料
教育大綱や基本方針で日本語を母語としない生徒への支援はどう扱われているか。	資料12

2 ご意見等

最低規模	・望ましいという表記になると、下回ると望ましくないことになる。本校は1学年1学級20人以上、分校は1学年1学級10人以上の目安に対して、維持するための環境づくりに取り組んでいく必要があるという形でよいのではないか。
	・生徒が1人2人になっても学校を残すかの議論がされたときに、学校の再編を考えるきっかけとなる記述が何か必要ではないか。
	・外国人が急激に増え、都市部では大きな問題が起こっている。高知県でも重大に捉え、対策を考えるべきではないか。
	・目安とする生徒数を維持できない場合や将来にわたって生徒数の確保が見込めない場合には、今後の高等学校の在り方を検討する必要があるという表記にするとよい。
入試制度	・日本語を母語としない子どもが県立高校の受検を拒んでしまう可能性はある。子どもが高校に入ってから対応してもらえるか不安である。
	・部活動の地域移行をしている現状をみると、部活動や特別活動での評価は厳しいと思う。
	・自己推薦として中学校でやってきたことを中学生がプレゼンし、そのプレゼンについて高校側が評価できると面白い選抜方法になるのではないか。
	・入試の実施時期は、子どもたちにとってどの時期がよいかという視点で考えないといけない。子どもたちの立場で考え、何が重要かを話していかなければならない。
	・特色化選抜はあくまで例外的に扱い、普遍的にやらない方がよい側面もあると思う。規模感がどのくらいかは慎重に議論をする必要がある。
	・高校の県外受入れについては、キャパシティがいっぱいではないかと思う。どういった思いのある生徒に来てもらうかが非常に重要である。地域の子どもが卒業生や中学生を見たときに刺激を受けることによって魅力が伝わると思うので、単に拡充することはどうかと思う。
	・それぞれの地域によって求める生徒像も違う。どういった学校が地域で必要か、先生がどのような働き方をするのが一番よいかを議論していくことが重要だと思う。
	・学校説明会では希望した3校しか内容がわからず、全高校の学校の内容がわかるわけではない。B日程で選択可能な校はすごく狭まっている。情報のない学校を選択することが非常に怖い。保護者への情報提供についても検討していただきたい。
	・教員の中には県外から来ている者もいるので入試制度がはっきりわかっていないこともある。
	・社会で求められている力を意識して高校入試がどうあるべきかを考えていかなければならない。
	・企業は世界と競争し、その中でどう生き残れるか、そのための人材を求めている。日本の産業をつくり出していくことができる子どもたちの力を伸ばしていくために、入試がどうあるべきか大きく変える必要がある。
魅力化・特色化	・中学生に直接繋がるのは動画だと思う。インターネットで全高校の特徴ある動画が見れてしかるべきと思う。全高校の概要、高知県の高校はいかに楽しいかという動画を考えてほしい。
	・予算を大きく計上し、専門家に各高校のホームページや特色がわかる動画の作成を依頼し、充実させていただきたい。